

■全体的に

- ・2022年度の活動方針を中心に検討した。
- ・持続可能な活動を行っていくために、各イベントの終了後に振返りを行い、1年かけて活動内容の見直しを行っていくこととした。
- ・子育て層へのアピールと各イベントへの参加の声掛けを強化していくこととした。
- ・7月から公園の指定管理者制度が導入されるが、当面は北川かっぱの会の活動を指定管理者に理解してもらうことに重点を置く方向とした。

■各論（特に議論のあった点）

1. 北山公園関係

- ・北山公園整備基本計画については、基本的には今ある環境の保全を優先していく方向で集約が図られつつあるが、来年度以降の実施設計や施工の検討の中でこれまでの流れが変わらないようにフォローしていくことが重要である。

2. 北川流域関係

- ・生物多様性地域戦略については市で予算化を図ることができなかったが、昨年、生きもの調査に参加していただいた人などを中心に、継続的に参加を促していくような仕組みづくりが大事だと思われる。また、市で取得した参加者のアドレス宛に北川かっぱの会のイベント情報を流すことができるようにしていったらいいのではないかという意見があった。

3. 外来生物の防除関係

- ・指定管理者との連携を図り、一緒に防除活動を行ってもらえる人を探したり、外来種情報の発信を検討してはどうか。
- ・トレイルカメラは、北山公園内にエサのある時期に継続的に設置していく方向とする（菖蒲まつり時は菖蒲田以外の場所に設置）

4. 環境調査関係

- ・北山いきものクラブや土曜講座等で捕獲した生き物の種類等について記録を残していく。とっかかりとして、北山いきものクラブで記録シートの作成を試みる（毎回、○をつければ記録が出来上がるようなイメージ）

5. 子供向けのイベントと環境学習関係

- ・北山いきものクラブについては、当日参加することができる会員が捕獲することができた魚や外来種を展示していく方向とする（毎回、いきものクラブ担当のリーダーが参加

することを前提としない)。また、いきものクラブ担当のサブを新設し、リーダーを補助する方向とする。

- ・北山小の総合的学習では、冬場に野鳥観察を実施する方向で調整を図っていく。
- ・来年度の土曜講座の実施の有無については、現時点では不明。
- ・北山わんぱく夏まつりは、実施の有無にかかわらず、4月下旬より骨子の検討をはじめ。また、原風景を守る会（今年度いっぱい活動を終息）から譲っていただいた昆虫について活用していく。

6. 関係機関との連携

- ・昨年度策定された「みどりの基本計画」については、その2021年度の進捗について7月に市民との意見交換会・報告会等が予定されているので参加していく。
- ・生物多様性地域戦略（東村山戦略）については、市の予算がつかなくても実施することができる内容について提案していく方向とする（指標種の選定や市民によるいきもの調査など）。
- ・よろず市民活動協議会（市内の様々な市民団体が参加する協議会）主催の市と公園の指定管理者、公園で活動を行っている市民団体との意見交換会や、同協議会主催の各公園での学習会の開催に協力していく。

7. 地域への情報発信関係、その他

- ・若い世代への情報発信を強化していく。特にFBでの情報発信頻度を高める、ハッシュタグ「/北山公園/」を使ったイベント等の周知、ホームページの完全リニューアルなどに取り組む。
- ・かっぱ通信（紙媒体）については、FB、ブログ、ホームページでの広報を補完していく位置づけとする。なお、かっぱ通信の印刷部数は、当面、現状の発行部数（1000部）を保持していく方向とする。
- ・北川かっぱの会の活動の歴史や過去のかっぱ通信、過去の調査結果などの閲覧が誰でも見ることができるようなアーカイブの充実化を図る（当面は、ホームページ上での過去のかっぱ通信の検索と閲覧（実施済）、過去の調査データの整理と公表方法の検討、活動の歴史（例；今月発行の東村山市史研究31号に掲載など）の掲載などについて検討）
- ・持続可能な活動を目指して、各活動の見直しを行っていくために、個々のイベントの終了時に「振り返り」を行い、会員の意見を集約していく。
- ・1年かけて各活動の見直しを行った上で、次年度に組織体制の見直しを図る。

■決算案、予算案

- ・提案内容のとおり承認された。

■組織体制

- ・「北山いきものクラブ担当」について、新たにサブを付けることとした。
- ・今年度 1 年かけて各活動の見直しを図った上で、来年度に組織体制の見直しを図っていくこととした。